

政治学概論 |

(14) 政治と政治学の未来

「政治」とは何か

■ 統治システムとしての政治

⇒ まつりごと、「治める」 = 人々をまとめ上げる

■ 人間の生活、人生にまつわる欲望を受け止め、方向づける

⇒ 権力の作用、権力はどのように作られるか

■ 現実主義と理想のせめぎあい ニヒリズムとユートピア論

マキャベリ「君主論」（16世紀イタリア）現実主義の古典
権力論 政治学の出発点 平等思想 ⇒ 人権 新たな政治学

民主主義における参加と責任

- 力 (power) ⇒ 権力 ⇒ 民主主義による「公権力」
- 民主主義の道のり = 自由と平等を求める政治過程
 - ※ 本来は両立しにくいものを同時に実現しようとする困難さ
 - 参加と責任の政治システム 参加は拡大を続け、責任は？
- 民主主義の可変性 安定的な運用には不斷の注意が必要
 - 逆戻りのある道 専制政府 全体主義 立憲主義による歯止め
 - 「すべての人を満足させる政治」 ⇒ ファシズムへの道？

我々は今どこに立っているか

- 人間の不完全さ 富をめぐる争い 欲望の政治化
- 自由と平等⇒安全で豊かになる世界⇒地球の破壊？
- 主権国家という概念 ⇔ 地球規模の政治課題
- 新自由主義と民族主義 グローバル化と多文化の軋轢
- 少子高齢化と富の偏在（格差）アイデンティティ政治

政治と我々に求められるもの

- 現実の政治問題への意見 ⇔ 反対意見への洞察
- 理想・希望・現実 ⇒ 現実・考察・改良という政治プロセス
※ 性急に結果や変化を求め過ぎないことも重要
- 自立した「個」と孤立の問題 政治コミュニケーション
現実空間での協力・共同作業の必要
- 民主主義のバージョンアップ 参加と責任の再構築